

室伏高信 (室伏高信) 評論家。明治二十五年五月十日神奈川縣生れ、昭和四年六月二十八日歿 (一九二一年七月)。筆名輩。明治大學中退。

『この新報』、『時事新報』等の記者を経て評論活動。雑誌『改造』、『日本評論』各主筆歴任。『室伏高信全集』全十五卷 (昭和十一年十一月至二十二年青年書房) 刊。

譯著書、シユレー著『エドワード・グレーの外交』 (譯、大正五年八月)

月二十九日卯出版社)、『社會主義批判』 (大正八年十一月十五日)

批評社)、『新社會への諸思想 (新人會等) 二回講演集』 (長谷川如規、北澤新次郎合著・新人會編、大正十年二月十五日聚英閣)、ベネトラント・ラ

ツセル著『社會改造の原理』 (譯、大正十年七月) 千五百冬夏社)、

『印象と傾向』 (大正十一年一月十日改造社)、『上に還る—文明の

没落・第一卷』 (増補改訂、大正十四年四月) 千日批評社)、『女性の創

造—文明の没落・別卷』 (大正十四年五月) 千日批評社)、『室伏

高信著作集』 (一) 『共產主義批評』大正十五年五月二十日、2 『社會

主義批評』六月二日批評社)、『亞細亞主義』 (第一冊、大正十五年

十一月十八日、第二冊—王道の思想、昭和二年一月二十日、第三冊

—大道の理想、二月五日批評社)、『光は東より』 (昭和二年五月一

日批評社)、『結婚論』 (昭和二年六月二十日批評社)、『アメリカ

—其經濟と文明』 (昭和四年二月十日先進社)、『日本はどこなる』

(昭和四年七月十日先進社)、『室伏高信集』 (『共

産主義と無政府主義』昭和四年八月十日千日田舎社、

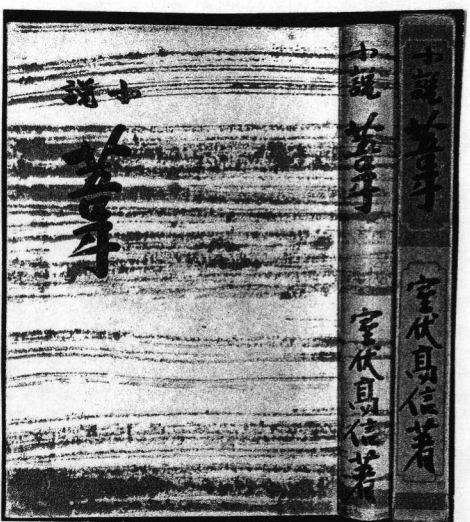
『全日本の呼びかけ』、『街頭の社會學』、『東

方人の理想』五年七月五日忠誠堂)、『海軍記—支那は起ちあがる』





- 千倉書房)、 『學生の書』 (昭和十二年五月) 千白モナス)、 『世紀  
 の論理』 (昭和十二年八月十八日) 二發書房)、 『東亞の世紀』 寿一  
 漢口陥落の後』 (昭和十二年十一月八日) 青年書房)、 『時局打開論』  
 (昭和十四年八月十五日) 青年書房)、 『戦後の思想問題』 (合著、昭  
 和十四年九月十五日) 第一書房「戦時體制版」、 『人生・世相・時局』  
 (昭和十五年一月十五日) 砂子屋書房「黑白叢書」、 『現代學生は何  
 を爲すべきか』 (編、昭和十五年二月) 千白四谷書房)、 『日本創世  
 記—日本文化史・第一卷』 (昭和十五年二月十五日) モナス)、 ビット  
 ラヤ著『我が闘争』 (譯、昭和十五年六月十五日) 第一書房「戦時體制  
 版」、 『日本露言』 (昭和十五年七月十二日) 三省堂)、 『新體制と  
 思想問題』 (昭和十六年四月十五日  
 青年書房)、 小説『葦』 (昭和十六  
 年八月) 千白青年社)、 『上海』 (合  
 著、昭和十六年十月十日) 三省堂)、  
 『國聖白蓮』 (昭和十六年十二月一  
 日) 特製・十七年七月一日) 潮文閣)、  
 『柳子(葦)第一部』 (昭和十七年  
 一月) 千白青年社) 弘道閣)、 『新青年の書』 (昭和十七年四月) 千五  
 白青年社) 弘道閣)、 『孔子・人との哲學』 (昭和十七年八月十日) 潮  
 文閣)、 『日本の人生觀』 (合著・大島豊編、昭和十七年七月十五日  
 文藝堂)、 『東洋政治思想』 (昭和十七年十一月二十日) 日本評論社  
 『東洋思想叢書』 (一)、 隨筆『山村記』 (昭和十八年八月一日) 元書  
 房)、 『東洋の書』 (昭和十八年十一月五日) 元書房)、 『新生の書』



(昭和)二十年十月十日新生社)、  
 『民主主義の日本』(昭和)二十年十  
 月二十日、再刊・十一月二十日新生社)、  
 『自由主義の社會主義か』  
 (昭和)二十一年一月十五日新生社)、  
 『孔子』(昭和)二十一年八月一  
 日、再刊・二十五年二月一日潮文閣)、  
 『日本の天皇』(昭和)二十一  
 年七月一日新生社)、  
 『二十一日』(昭和)二十一年九月二十日第四書  
 房)、  
 『人間死なず』(昭和)二十六年九月二十日青年社(「人生」)、  
 『人間宣言―社會主義の代るもの』(昭和)二十八年十一月十五日青年  
 社)、  
 『頭の時代―マルクス主義か  
 ら知能主義へ』(昭和)二十八年十一  
 月十日綜合日本社)、  
 『現代人―第  
 二の革命は始まつてゐる』(昭和)二  
 十一年四月五日朋文社)、  
 『野球と  
 正力』(昭和)二十二年五月七日大日  
 本雄弁會講談社)、  
 『マッス(大衆)』(昭和)二十二年十一月二十日  
 全貌社)等。

